

研究室だより

人事

荒金良美さん、四月一日付で助手として着任。  
河野龍也先生、四月一日付で専任講師として着任。

公開講座

印刷史から絵図を読む — 『大坂安部之合戦図』『大坂卯年図』の場合 —

村木敬子氏（大東急記念文庫学芸員）

平成二十二年五月二十九日（土）午後二時～三時三十分

本館四四一教室

赤本の世界 — 絵本を通して見る江戸の光景 —

佐藤悟（本学国文学科教授）

平成二十二年六月五日（土）午後二時～三時三十分

本館四四一教室

今年度は五月に本学で近世文学会が開催された。それと連動して、学科としても近世文芸をテーマとした公開講座を行った。両日ともに、学内外から多くの聴衆を集めた。

大学院研究会開催

平成二十二年前期 大学院文学研究科国文学専攻 研究発表会

平成二十一年七月十日（土）午後二時～五時

本館三六二教室

滝亭鯉丈研究 — 板元 大坂屋茂吉の出版事情 —

博士前期課程1年 後藤ひとみ

鏡花の色彩表現研究 — 赤を中心に —

博士前期課程2年 小池由華

『銀河鉄道の夜』異本研究

博士前期課程2年 中山いづみ

夏目漱石『漾虚集』の研究 — 歴史記録から文化の記憶へ —

博士後期課程2年 ポロンスカイト・ユルギタ

『万葉集』巻二 一〇七・一〇八番歌考

博士後期課程2年 伊藤好美

新入学の博士前期課程1年生一名、博士前期課程2年生二名、博士後期課程二名と、盛会であった。博士前期課程

2年生の発表は、修士論文の執筆を前提としたもので、今後のさらなる発展が期待される。

後

卒論ゼミナール

池田三枝子ゼミ

九月一日(水) ～ 二日(木)

茨城県(合宿)

影山輝國ゼミ

八月十一日(水) ～ 八月十三日(金)

箱根 仙石原実習所(合宿)

栗原敦ゼミ

九月十四日(火) ～ 九月十五日(水) 学内(発表会)

河野龍也ゼミ

九月十六日(木) ～ 九月十八日(土)

箱根仙石原実習所(合宿)

近藤みゆきゼミ

九月十六日(木) ～ 九月十七日(金) 学内(発表会)

佐藤悟ゼミ

九月二日(木) ～ 九月四日(土)

箱根 仙石原実習所(合宿)

棚田輝嘉ゼミ

九月十三日(月) ～ 九月十五日(水)

軽井沢実習所(合宿)

福嶋健伸ゼミ

九月十五日(水)

学内(発表会)

牧野和夫ゼミ

九月八日(水) ～ 九月十日(金) 長野県(合宿)  
山内博之ゼミ

九月六日(月) ～ 九月八日(水)

箱根 仙石原実習所(合宿)

横井孝ゼミ

九月一日(水) ～ 九月三日(金) 京都(合宿)

夏期休業中に卒論ゼミ合宿・研究発表会が以上の日程で行われた。

## 〈編集後記〉

『実践国文学』にとって試練の時期が続いている。前号は論文三本に翻刻一本の構成で、厚さ五ミリ余。かつては二センチの厚みの号もさほど稀ではなかった（尤も特集号ではあったのだが）のに較べると、寂しいなどという問題ではない。ただし本号には渡邊守邦名誉教授の稿を得ることができた。本年五月の近世文学会の発表を増補されたものである。喜ばしいかぎり。

このほか論文四本・研究余滴一本。近年の平均か。あえて響響を買うつもりで埋め草原稿を書いた。卒業生・院生の投稿に期待したい。

影山教授から本誌の編集を引き継いだ。特段の引き継ぎはなかった。実情の認識は共有しているつもりなので、いわば阿吽の呼吸のようなものか。  
(横井 孝)

平成二十二年度前期号にあたる、第七十八号をお送りいたします。今年度から、専任講師として河野龍也先生をお招きすることとなりました。ご専門は近代文学で、特に佐藤春夫の研究をなさっています。

さて、今年度後期号では、国文学科特別講演会のご報告を行うこととなりますが、この場を借りてご案内を申し上げます。来る十月二十九日（金）、十三時より「江戸奇術

の愉しみ ―江戸文学と奇術―」といたしまして、和妻の大家である藤山新太郎師をお迎えして、江戸奇術を中心とした講演を行います。事前の予約は不要、入場は無料です。その他、情報は学科ホームページにて公開をしておりますので、ご確認ください。  
(植田 麦)

## 〈編集委員〉

池田 三枝子（代表）

植田 麦（編集担当）

影山 輝國

栗原 敦

横井 孝（編集長）